



「中干し」を実施しましょう!!

茎数が少なめに推移していることから、分けつを確保するため、中干しの開始まで浅水管理を継続しましょう。

中干し開始本数になった圃場は、遅れずに中干しを実施しましょう。

中干し終了時期 ゆめみづほ：6月25日頃、コシヒカリ：7月5日頃

うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

	推進技術	目標	チェック
1～6	1. 播種量（うす播きの励行） 2. 育苗日数（健苗の育成） 3. 植付本数（3～4本植えの励行） 4. 適正な栽植密度（優良茎の確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植えの防止）		
7	中干し・溝切り （遅発分けつの抑制）	・ 田植え 1か月後 からの実施（過剰生育防止） ・ 中干し期間 1か月 （コシヒカリ）の遵守	
8	除草・防除 （畦畔等除草とカメムシ防除の徹底）	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9	水管理 （飽水管理の徹底）	・ 中干し後から出穂までの約 1か月 （コシヒカリ）の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理	
10	刈取時期 （適期刈取りの励行）	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り	

水稻の生育状況

生育状況（管内生育観測田平均、5月28日調査）

ゆめみづほ					コシヒカリ				
草丈 (cm)		茎数 (本)			草丈 (cm)		茎数 (本)		
本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)	本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)
31.8	23.4	13.9	253	219	31.0	25.7	11.1	214.2	135

●株で き：茎数はゆめみづほ、コシヒカリともに平年にくらべ多いです。

⇒目標茎数（ゆめみづほ：15～18本、コシヒカリは13～16本）を確認したら、中干しを開始しましょう！

●葉数の展開：ゆめみづほ、コシヒカリともに平年並です。

今月のポイント1 ヒエ対策

田面が露出しやすい圃場は、ヒエの発生が懸念されるため、早めに対応しましょう。

水のない圃場では、「クリンチャーEW」を散布しましょう。

※「クリンチャーEW」には必ず展着剤（サーファクタント30等）を加用しましょう。



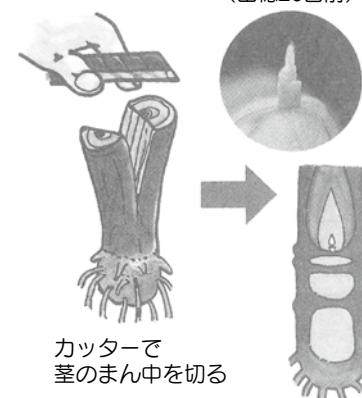
今月のポイント2 ゆめみづほの穂肥

分施タイプ（一発肥料を使用していない圃場）

穂肥の施用時期と施肥量（7月17日出穂の場合）

1回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a 幼穂長3～5mm 出穂23日前 6月24日～27日
2回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a 止葉展開 出穂10日前 7月7日～10日

ゆめみづほ 幼穂長 3mm
(出穂20日前)



注) 幼穂長を確認してから穂肥を施用しましょう。

裏面に続きます

農作業を行う際は熱中症に十分注意しましょう！

病害虫防除は遅れないように確実にいきましょう！

カメムシ防除のため、7月上旬までに畦畔・農道等の仕上げ除草を！

6月は一斉除草月間です！

今月のポイント3 カメムシ対策 ⇨営農の手引き38ページも参照ください

- 近年、斑点米カメムシが多発傾向です。徹底した対策を行いましょう。
- ①カメムシの生息密度を下げるため、畦畔・農道等の除草を行いましょう。
→刈った草が用排水路に入らないように注意しましょう。
 - ②7月上旬までに仕上げ除草を実施し、中旬以降の草刈りは行わないようにしましょう。
→7月10日以降の草刈りはカメムシ類を水田内に追い込むことになります。

今月のポイント4 コシヒカリの登熟向上対策 ⇨営農の手引き35ページも参照ください

珪酸加里プレミアム 30kg/10aまたは **PKけいさん特号** 40kg/10aをまだ施用していない方は早めに施用しましょう。(6月15日～20日まで)
○「けい酸パワーコシー発くん」を施用した圃場には散布する必要はありません。

今月のポイント5 稲こうじ病の防除対策 ⇨営農の手引き38ページも参照ください

- 「Zボルドー粉剤DL」：散布量は4kg/10a、散布時期は出穂の14～10日前です。
(早生：7月6日頃、コシヒカリ：7月中旬)
- 「モンガリット1キロ粒剤」：散布量は1kg/10a、散布時期は出穂の21～14日前です。
(早生：7月2日頃、コシヒカリ：7月中旬)
- 常発地や過去3年以内に発生した圃場では、必ず継続して散布を行ってください。
 - 玄米に混入すると規格外となります。

今月のポイント6 乳白粒発生防止対策

～幼穂形成期から出穂後3週間までの水管理は間断通水で～
稲は、幼穂ができ始めてから出穂後3週間までの間に最も水を必要とします。
(幼穂形成期＝ゆめみづほ：6月25日頃、コシヒカリ：7月5日頃)
中干し後は3日間隔の間断通水を行い、土壌表面が常に湿った状態に保ちましょう。
高温時には夜間通水を心がけてください。

今月のポイント7 イナゴ対策

昨年、イナゴが発生した地区については「トレボン粒剤」を2～3kg/10a散布してください。
6月中旬～7月中旬の散布が最適です。(湛水状態で散布してください。)

トータルコスト低減運動

No,		項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
労働費低減	1	畦畔管理時間の削減	除草剤、抑草剤を組み合わせた畦畔管理による作業時間の削減	畦畔除草作業効率30%
	2	カメムシ防除タイミングの最適化	発生予察に基づく臨機・適期防除、畦畔除草の徹底	防除作業効率10%
生産性向上	1	最適な施肥手法	肥料の種類、施肥体系の見直しや早生品種の追加穂肥(とれるぞう)による収量の向上	収量向上
	2	水管理の徹底	生育状況と生育環境に適した水管理の徹底による品質の向上	品質向上

ゆめみづほ現地講習会日程

開催日	曜日	開催時間	開催場所
6月19日	金	18:00～	J A グリーン前

◎開催内容について

1. ゆめみづほ1俵増収のポイント
2. コシヒカリの本田雑草対策のポイント
3. カメムシ(斑点米)対策のポイント
4. 早生品種の穂肥診断と今後の管理について

水稻栽培履歴への記入確認をお願いします。
農作業を行う際は、こまめな休憩や水分補給を行い、熱中症を予防しましょう。
◎営農に関するお問い合わせはJ A (☎288-7555)、津幡農林事務所 (☎289-4158) におたずねください。